

# 第5回 がんセンター 院内職員研修

2014年10月5日(日)～11日(土)『ホスピス緩和ケア週間 講演会』  
10月1日(水)～31日(金)『がん検診受診率50%達成に  
向けた集中キャンペーン月刊』

日時；平成26年10月9日(木)  
17時15分～18時15分

場所；臨床第一講堂

プログラム

司会；がんセンター

副センター長・がん治療支援部門長

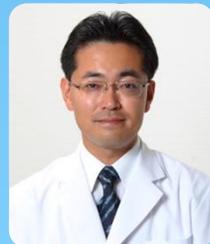
後藤 昌弘

開会挨拶；看護部長 西山 裕子

個別化治療時代のコミュニケーションを再考する  
～ がん診療の現場から“個”と“孤”を考える～

がんセンター副センター長 藤阪 保仁

分子標的薬剤が次々と臨床に導入されています。中でも癌化、増殖のプロセスに重要な「Driver mutation」といわれる遺伝子変異の発見は臨床に大きな変化をもたらしました。Driver遺伝子変異の有無により治療効果の違いがはっきりとした薬剤の登場により治療選択肢が変化しました。薬剤が患者を選択する時代になったのか、そう錯覚することさえあります。患者さんと共に私達が治療を考えていくのです。我々もこの変化を受け留め、旧来のコミュニケーション方法にとどまらず個別化医療時代にふさわしい形に再考していかなくてはなりません。どんな問題があるのか、どうすれば良いのか、皆さんと一緒に考える時間が共有できればと思います。



閉会挨拶；看護部長 西山 裕子

《お問い合わせ》 がんセンター 内線3082  
病院外来棟4階2号館と3号館の間